

高知県 農業技術センターニュース

第88号 2017年7月

目 次			
野外のセイタカアワダチソウにおける チビトビカスミカメ類の発生推移	・・・1	ヒートポンプ冷房を用いた促成ピーマンの 作期前進化試験 -7～8月のハウス内気温の推移-	・・・4
株分け青ネギ栽培における土壌 pH の影響	・・・2	トルコギキョウの 11～12 月出し栽培における 夜間冷房栽培の効果	・・・5
「ピーマン育種プロジェクト」によるピーマン 品種開発の取り組み	・・・3	ニラ褐色葉枯病の症状と発生時期	・・・6

野外のセイタカアワダチソウにおける チビトビカスミカメ類の発生推移



写真1 ミナミチビトビカスミカメ成虫



写真2 チビトビカスミカメ類によるシシトウ奇形果

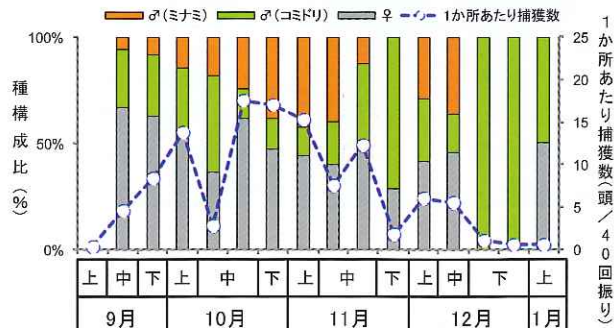
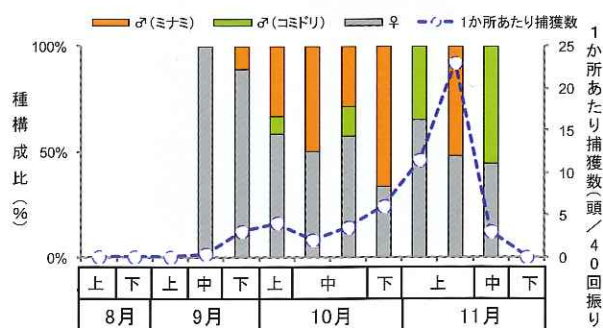


図 野外セイタカアワダチソウにおけるチビトビカスミカメ類の発生推移
(左:平成27年度、右:平成28年度) 注)捕虫網40回振りで調査

高知県の施設栽培ピーマン・シシトウでは、チビトビカスミカメ類(写真1)の吸汁による奇形果(写真2)の発生などの被害が問題となっています。そこで、チビトビカスミカメ類の防除対策を検討するため、土佐市および南国市計3～4地点の圃場周辺のセイタカアワダチソウ群落におけるチビトビカスミカメ類の発生推移を調査しました。採取した雄成虫の種を判別した結果、セイタカアワダチソウではコドリチビトビカスミカメとミナミチビトビカスミカメが混在しており、9月中旬から発生が認められ、生息密度は10月～11月に高まることが明らか

となりました(図)。さらに、ハウスサイドに設置した粘着トラップにおいても、10月中旬から誘殺されはじめ、11月中旬まで誘殺数が多かったことから(データ省略)、圃場周辺のセイタカアワダチソウ群落はチビトビカスミカメ類の主な発生源のひとつで、チビトビカスミカメ類は10月～11月に圃場に侵入してくることが推定されました。今後、物理的な侵入抑制技術を検討するとともに、微生物製剤や天敵類など生物的防除法を開発し、防除体系の確立に取り組んでいきます。
(昆虫担当 近森ちさこ 088-863-4915)